

J・S・ミル 『代議政治論』 自筆草稿  
(日本大学法学部図書館所蔵) について

川 又 祐

- 1 はじめに
- 2 ミル 『代議政治論』 自筆草稿購入の経緯
- 3 ミル 『代議政治論』 自筆草稿
  - (1) 各種ミル自筆草稿とその所蔵先
  - (2) 『代議政治論』 自筆草稿書誌
  - (3) 『代議政治論』 自筆草稿AからKまでの十一帖
  - (4) 『代議政治論』 自筆草稿のウォーターマーク (透かし模様)
  - (5) 『代議政治論』 自筆草稿と『代議政治論』(初版)の章題および冒頭文対照
- 4 おわりに

## 1 はじめに

日本大学法学部は、一八八九年に日本法律学校として産声をあげた。爾来、発展を遂げて、二〇一四年に創設百二十五周年を迎えた。学部では、記念事業として、法学部新ロゴマークの制定、特別展示会（学祖展・貴重書展示会）、ホームカミングデー、学内学会・研究所合同研究会、公開講座の諸行事が催された。筆者は、幸運にも記念事業のいくつかに携わることができたが、中でも特別展示会（学祖展・貴重書展示会）は刺激あふれるものであった。

特別展示会（学祖展・貴重書展示会）は、二〇一四年十月一日から十一月三日までの期間、法学部図書館一階ブラウジングコーナーで開催された。そもそもこの展示会の準備は、二〇一三年から開始された。図書館長藤原孝教授から、この展示会で展示する資料の選定と、それを紹介する『日本大学法学部創設百二十五周年記念特別展示会図録』（日本大学法学部図書館、二〇一四年<sup>①</sup>）の編集が、筆者に委ねられることになった。そこで、これまで図書館が公開してこなかった貴重書や、学生になじみのある学者の著書を中心に選書することを法学部図書委員会に諮り、それが了承された。そして後者に関してはとりわけ、「政治・経済」や「世界史」の教科書に登場する学者の著作が選書の対象とされた。

図書館は、学生への学習環境の提供と研究者への研究環境の提供という二つの役割を担っている、と筆者は個人的に考えている。図書館は、ウェブ環境が整っていることはもちろん、学生が必要な本を手に取り、いつでも学習ができるようにしなければならない。また図書館は、研究者が個人としては入手しえないような資料も収集・所蔵して、研究材料を提供し、その研究環境を整備しなければならない、というのが私見である。図書館は、それ自体の方針に

従って、資料収集にあたることになるのであるが、わが法学部図書館は、法律、政治、経済の分野を中心に貴重な資料を収集してきた点で、きわめて個性的である。

法学部図書館がこれまで収集してきた貴重書には、インクナブラ、十六〜十八世紀ヨーロッパ法制史関連文献コレクション、同ディセルタチオ (Dissertatio) コレクション、ジョン・ロー (John Law) の自筆草稿を含むジョン・ロー・コレクション、アダム・スミス旧蔵書、J・S・ミル『代議政治論』自筆草稿、J・S・ミルやD・ヒュームをはじめとする著名学者の自筆書簡コレクション<sup>(2)</sup>、ホップズ『リヴァイアサン』初版三種 (川又、二〇一四年)、サン・シモン・コレクションなどがあり、これらは世界的に見ても、重要かつ歴史的な所蔵資料となっている。学部図書館の所蔵資料としては、いずれも破格のものばかりである。そうした所蔵資料の一端を、日本大学学祖山田顕義関連資料と一緒に紹介するというのが、今回の展示会の目的でもあった。その中でミルの『代議政治論』自筆草稿は、当然に選書されることになったのである。

## 2 ミル『代議政治論』自筆草稿購入の経緯

ミルの『代議政治論』自筆草稿は、一九八〇 (昭和五十五年) 年、ジェレミー・ノーマン社 (Jeremy Norman & Co., Inc. San Francisco) から売りに出された。ノーマン社は、販売に当たってカタログ *Twelve Manuscripts* (Norman, 1980) を作成して、ミルの自筆草稿をそのカタログの十一番目に記載した。

この自筆草稿には、『ミル全集』 (*Collected Works of J. S. Mill*) の総合編集者として知られるジョン・M・ロブソン (John M. Robson)<sup>(3)</sup> による二組の文書が添付されている。それは、次のような文面であった。

「一九七九年十二月四日

ジョン・ステュアート・ミル (John Stuart Mill, 1806-73) は、その著作の雄大さおよび深遠さから、十九世紀イギリスの抜きん出た哲学者として評価されている。政治理論に関する彼の著作には、固有の重要性がある。そのうち最も意義深いものは、彼の『代議政治論』であり、それは一八六〇年に執筆され、一八六一年に公刊され、そして続く四年間に三つの図書館版 (Library edition) が出されたのである。本作は、公然の民主主義者による作品である。彼は、北米やヨーロッパそしてイギリス帝国における民衆運動を入念に考察した。また彼は、若い時から、一八六五年に急進的な自由党員としてイギリス議会に選出されるまで、絶え間なくイギリス改革運動に従事した。また一方、『代議政治論』は、(彼の『論理学体系』*System of Logic* や『経済学原理』*Principles of Political Economy* のような) ミルの完成度を湛えた他の全著作と同様、中心的な論点を入念に考察していることによって特徴づけられている。本書の場合では、その考察によって、政治民主主義の潜在的危険性が取り扱われている。「というのも」ミルは、民主主義制度の増大を実際に必然のことではあるが、無条件に素晴らしいものとは見ていないからである。とりわけ、彼が焦点を合わせ取り組んだのが、賢明で強力なリーダーシップと、幅広い参加の必要性とを結合させる問題であった。すなわち、最近大きな関心を引きつけてきた論点である。

本書は、目覚ましい成功を収め、実践的な政治家や他の理論家たちに引用されている。そして今日まで、民主主義理論の主要な論点が大いに読みやすい概説本として、出版が続いてきた。

ミルの重要性や、多くの彼の著作、そして人気を考えると、草稿がとてまわずかしか生き残ってこなかったというのは驚きである。とりわけ、現在まで、『代議政治論』草稿は世間に知られてこなかったのである。私の判断では、ジェレミー・ノーマンに所有されている草稿を、簡単な目視とはいえ注意深く検討したところによって、本草稿は、本書の第一稿 (First draft) である (ミルは、自分の『自伝』で説明しているように、また他の草稿からも確認できるように、重要著作の場合、二つの完全原稿 (complete draft) を書いたのである。二つのこれら完全原稿のうちの第一稿には、『論理学』と『自伝』のそれが知られている)。この草稿は、ずっとミルが手元に持っていたものである。そして当時の彼の筆跡や彼の慣例からなる両方の特徴が示されている。後者に関しては次の一例を挙げる事ができる。本文は、表ページ (recto) に見えている。裏ページ (verso) は大きな追加や脚注のために空けてある。それら〔追加・脚注〕のいくつかは、裏ページに見つかる (言及しておかなければならないことに、本書の脚注はとも数が少ない。だから裏ページはほとんど空白になっている)。用紙は、「丁合」(gatherings) を取ってまとめられている (おそらくは後日、綴じられたものである)。用紙それぞれは、右上角に「アルファベット」大文字の記号が付けられている。それは、ミルの筆跡による活字体である (ここではAからKまで)。本文は、大幅にあまねく修正されていて、後の簡単な改訂がいくつか示唆されている。行間への書込み、書き足し、そして注記の表示は、ミルのいつものやり方で行われている。特に興味があるのは、ミル鉛筆書きの言及 (その多くは裏ページ) であるが、それはおそらくは彼が原稿を再読したときに行われたもので、またそれは、実際の改訂ではなく、将来の改訂のための忘備録 (aides memoires) として構成されているのである。これらのいくつかは、初版本文に引き継がれているようであり、そして、少なくとも本草稿の終わりの方のページにおける鉛筆書きは、そうである。

私の調査によって指し示されているのは、ミルが、本書を書き直す際、大量の改訂を行ったということであり、それはまた、本文を発展させながら、興味深いやり方で変更しているということである。(章番号はついていないもの) 章題が草稿につけられており、その大半は、印刷本文の表現に相当忠実かあるいは一致している。けれども数章は、本書の中盤から配列が直されている。ミルが創作する習慣では、「序言」(Preface)を置くことも重要となっており、それは最終章本文の後の草稿に登場している。

私の印象では、本文を初版および後の版のそれと丹念に校合 (collation) すれば、結論を裏付けている項目や論拠に関して、ミルの民主主義理論形成をより深く理解することになるであろう。ミルの著述家および理論家としての精神活動を完全に評価しようとすればするほど、比較 (comparison) の重要性がより明白になってくるのである。私が『ミル全集』第十九巻に本文(その最初の学術的照合版)を編集した際、この草稿が利用できていれば、本文および注釈は、著しく異なっていたであろう。将来、編者に草稿が利用可能となれば、両者の改訂は必定であろう。

ジョン・M・ロブソン」

「この覚書 (note) は、一九七九年十二月四日、ジェレミー・ノーマン (Jeremy Norman) に見せられた J・S・ミルの『代議政治論』草稿の「内容の」一部あるいは全部を、ジェレミー・ノーマンから草稿を獲得するであろう個人あるいは機関の明白な同意なしには、公表しないという私の誓約を表すものである。この誓約は、『ミル

『全集』を編纂している私の仲間たちを含むものとして理解しなければならない。

ジョン・M・ロブソン

これらの文書は、ノーマンが、一九七九年十二月、販売に先駆けてロブソンにミルの草稿を見せて、それがミル直筆であるとの調査結果を得ていたことを明らかにしてくれる。そしてノーマンは、ロブソンのこの謂わば「鑑定書」と、「覚書」とを添付して購入者を募ったのである。日本では、紀伊國屋がその販売を仲介した。一年後、その仲介に応じたのが本学図書館である。図書館に残されている資料を見ると、当時の購入推薦者は、鶴澤義行、中山政夫、北岡勲、杉山逸男の四教授で、図書館長は大淵利男教授であった。四氏は、昭和五六（一九八一）年一月十二日に推薦書を図書委員会に提出した。そして一月十九日に図書館は購入を決定している。これは英断といってよいであろう。ミルの自筆草稿はこうして、日本大学法学部図書館の所蔵となった。その後、ミル自筆草稿の存在は、法学部図書館ホームページや、各種の広報誌・紙で紹介されている。しかしながら、ロブソンが期待したような、本格的な校合・調査は、残念ながら今日まで行われていない。

### 3 ミル『代議政治論』自筆草稿

#### (1) 各種ミル自筆草稿とその所蔵先

ミルの『代議政治論』自筆草稿を検討する前に、「完全」原稿として残されているミルの自筆草稿について、『ミル全集』を基に、どれほどの点数が存在しているかについて確認しておこう。

表1 各種ミル自筆草稿とその所蔵先

書名	所蔵先
『論理学体系』 <i>A System of Logic</i> (1843)	The Morgan Library & Museum (CW. VIII. Appendix A). 'Early draft.' <sup>(4)</sup>
	British Museum (CW. VIII. Appendix J). 'Press-copy.'
『経済学原理』 <i>Principles of Political Economy</i> (1848)	Pierpont Morgan Library (CW. III. Appendix F). 'Press-copy.' <sup>(5)</sup>
『自伝』 <i>Autobiography</i> (1873)	University of Illinois (CW. I. xix.). 'Early draft.'
	Columbia University (CW. I. xix.). 'Columbia MS.'
	John Rylands Library (CW. I. xx.). 'Rylands transcript.'
	Yale University (CW. I. xx.). 'Yale fragment.'
『宗教をめぐる三つのエッセイ』 <i>Three Essays on Religion</i> (1874)	1922年以降、所在不明 (Norman, 48.)。'Autograph and scribal copies.'
『社会主義論集』 <i>Chapters on Socialism</i> (1879)	1922年以降、所在不明 (Norman, 48.)。'Manuscript.'

ノーマンがカタログで記述している後半二つの行方不明を含めても、現存する点数が圧倒的に少ないことがわかる(七点と不明二点)。今回ここに本草稿が加わることになる。本草稿の重要性・稀少性は、この表からも明らかである。

(2) 『代議政治論』 自筆草稿書誌

さて、売り出された時のノーマンのカタログには、  
11 Complete Autograph Manuscript for one of  
“The Great Books of the Western World”

Mill, John Stuart (1806-73). Untitled autograph manuscript draft of *Consideration on representative government*. 224 leaves, mostly written on rectos with occasional notes on versos, with extensive current revision & later light revision. 23.5 x 18.5 cm. Gathered in 11 quires,

marked A - K by Mill, each separately sewn, probably at a later date, uncut. In fine condition, in a full morocco box, gilt label. Composed in part if not entirely at Avignon, in 1860 (Norman, pp.48-50).

すなわち

「十一『西洋世界の重要文献』の一つ「に選ばれた」自筆完全草稿

ジョン・ステュアート・ミル（一八〇六―七三）。表題なしの『代議政治論』自筆草稿。一二四葉（sic）、〔本文は〕ほとんど表ページ（recto）に書かれており、時に裏ページ（verso）に注記がある。広範な走り書きの改訂と後からの「文字が」はつきりしない改訂つき。23.5×18.5 cm。十一帖にまとめられ、ミルによってAからKの記号が付けられている。おそらくは比較的後の年代に個別に綴じられたもの。未裁断（uncut）。状態よし、モロッコ革製の箱入り、金箔の貼り札。全部ではないにしても、ある程度は、一八六〇年、アヴィニオンにて作成。」

と紹介されている。法学部図書館の書誌情報は、ノーマンの記述を正して、現在では表2の内容になっている。自筆草稿が入れているモロッコ革製の箱は、ミル自身が所有していた際に作成されたものなのか、彼以後の所有者が作成したものなのかは不明である。ミルの自筆草稿を所蔵している表1の各機関に同様の箱が存在するのか、照会すれば何かわかるかもしれない。

表2 日本大学法学部図書館 OPAC 書誌情報

<図書>	
[Considerations on representative government] [manuscript] / [John Stuart Mill] (John Stuart Mill collection ;4)	
データ種別	図書
出版者	[s.l.] : [s.n.]
出版年	[1860]
本文言語	英語
大きさ	228 leaves in 11 quires (A to K) ; 24 cm
別書名	異なりアクセスタイトル : Manuscript : Considerations on representative government
一般注記	Untitled autograph manuscript A-B quire: 24 each leaves, C-J quire: 20 each leaves, K quire: 20 leaves (7 leaves blank)
著者標目	Mill, John Stuart, 1806-1873
書誌 ID	1000228088
資料種別	文字資料 (書写資料)

(3) 『代議政治論』自筆草稿 A から K までの十一帖

ミルの A 帖と B 帖は、十二枚が二つ折り(谷折り)にされ、三か所で糸綴じされている。C 帖から K 帖までは、十枚が二つ折り(谷折り)にされ、五か所で糸綴じされている。その結果、A 帖と B 帖は各二四葉、C 帖から K 帖までは各二十葉となり、全部で二二八葉となる。<sup>(6)</sup> これら十一帖について各葉の表ページ(右ページ)、裏ページ(左ページ)の状態を調べてみよう。次の表3は、紙葉ごとに本文や書込みの状況を表している。表中の「本文」は、表ページに本文が記載されていることを、「白紙」は文字の記載がない状態を、「○」は、注記などの書込みがあることを示している。A から K の大文字は、ミルが記載した活字である。この表から、ロブソンが語っているように、ミルによるこの自筆草稿への書込みは少ないことが分かる。

表3 ミル自筆草稿十一帖の本文・書込み状況

A 24葉	表	裏	B 24葉	表	裏	C 20葉	表	裏
1	○ A	白紙	1	本文 B	白紙	1	本文 C	白紙
2	本文	白紙	2	本文	白紙	2	本文	白紙
3	本文	白紙	3	本文	白紙	3	本文	白紙
4	本文	○	4	本文	白紙	4	本文	白紙
5	本文	白紙	5	本文	白紙	5	本文	白紙
6	本文	白紙	6	本文	白紙	6	本文	白紙
7	本文	白紙	7	本文 ○	白紙	7	本文	白紙
8	本文	白紙	8	本文	白紙	8	本文	白紙
9	本文	白紙	9	本文	白紙	9	本文	白紙
10	本文	白紙	10	本文	白紙	10	本文	○
11	本文	白紙	11	本文	○	11	本文	白紙
12	本文	白紙	12	本文	○	12	本文	○
13	本文 ○	白紙	13	本文	白紙	13	本文	○
14	本文	白紙	14	本文	白紙	14	本文	白紙
15	本文	白紙	15	本文	白紙	15	本文	白紙
16	本文	白紙	16	本文	白紙	16	本文	白紙
17	本文	白紙	17	本文	白紙	17	本文	白紙
18	本文	白紙	18	本文	○	18	本文	白紙
19	本文	○	19	本文	白紙	19	本文	白紙
20	本文	白紙	20	本文	白紙	20	本文	白紙
21	本文	白紙	21	本文	白紙			
22	本文	白紙	22	本文	白紙			
23	本文	白紙	23	本文	○			
24	本文	白紙	24	本文	白紙			

D 20葉	表	裏
1	本文 D	白紙
2	本文	白紙
3	本文	○
4	本文	白紙
5	本文	白紙
6	本文	白紙
7	本文	白紙
8	本文	白紙
9	本文	白紙
10	本文	白紙
11	本文	白紙
12	本文	○○
13	本文	白紙
14	本文	白紙
15	本文	○
16	本文	白紙
17	本文	白紙
18	本文	白紙
19	本文	白紙
20	本文	白紙

E 20葉	表	裏
1	本文 E	白紙
2	本文	白紙
3	本文	白紙
4	本文	白紙
5	本文	白紙
6	本文	白紙
7	本文	白紙
8	本文	白紙
9	本文	白紙
10	本文	白紙
11	本文	白紙
12	本文	白紙
13	本文	白紙
14	本文	白紙
15	本文	白紙
16	本文	白紙
17	本文	○
18	本文	白紙
19	本文	白紙
20	本文	白紙

F 20葉	表	裏
1	本文 F	白紙
2	本文	白紙
3	本文	白紙
4	本文	白紙
5	本文	○
6	本文	白紙
7	本文	白紙
8	本文	白紙
9	本文	白紙
10	本文	白紙
11	本文	○
12	本文	白紙
13	本文	白紙
14	本文	白紙
15	本文	白紙
16	本文	白紙
17	本文	白紙
18	本文	白紙
19	本文	白紙
20	本文	白紙

G 20葉	表	裏
1	本文 G	白紙
2以下	本文	白紙

H 20葉	表	裏
1	本文 H	白紙
2以下	本文	白紙

I 20葉	表	裏
1	本文 I	白紙
2以下	本文	白紙

J 20葉	表	裏
1	本文 J	白紙
2以下	本文	白紙

K 20葉	表	裏
1	本文 K	白紙
2～12	本文	白紙
13	白紙	白紙
14	本文	白紙
15～20	白紙	白紙

(4) 『代議政治論』 自筆草稿のウォーターマーク (透かし模様)

日本大学法学部図書館が所蔵しているミルの自筆書類類は二十点ほどである。<sup>(7)</sup> 使用されているその便箋には、もちろんすべてではないが、W WEATHERLEY / 1822' J WHATMAN / 1840' JOYNSON / 1863' JOYNSON / 1865' JOYNSON / 1866' JOYNSON / 1868' JOYNSON / 1870' のウォーターマークが入っているものが含まれている (「/」は、改行を表している)。「ミル全集」第一巻「序論 (Introduction)」によれば、イリノイ大学やコロンビア大学が所蔵する『自伝』草稿には、'Britania' 'STACEY WISE 1849' 'C ANSELL 1851' 'C ANSELL 1852' 'Fleur-de-lis' 'WEATHERLEY 1856' が入っているという (CW. I. Introduction. xix. 山下、二〇—二二頁)。これに対して、『代議政治論』自筆草稿の紙葉には、これらに該当するウォーターマークは存在しない。また、便箋と『代議政治論』自筆草稿に用いられている紙葉は、その触感が異なっていることから、明らかに別の紙である。将来的には、『自伝』草稿の紙葉と『代議政治論』自筆草稿のそれとの比較も必要になるであろう。

(5) 『代議政治論』 自筆草稿と『代議政治論』(初版)の章題および冒頭文対照

自筆草稿には、章番号がつけられていない。しかし章題には下線がつけられていて、本文と区別されている。ここでは便宜的に、自筆草稿の章題に①から⑰までの番号をつけて、『代議政治論』初版(一八七二年)の章構成(序と全十八章)と対照させてみる。また、章題(初版ではすべて大文字)、そして各章冒頭の文章の異同についても両者を比較する。その結果一致している場合は、「||」を、ほぼ一致している場合には「≡」の記号を記入してある。翻刻できなかった箇所や翻刻が不確定な箇所は、「[??]」や「[...?」で示している。

表4 ミル自筆草稿と『代議政治論』の章題および冒頭文対照表

帖・紙葉	自筆草稿章題・冒頭文	原典章題・冒頭文
A-2-13	<p>〔①〕 To what extent forms of government are a matter of choice</p> <p>The discussion of forms of government may be undertaken in two different modes, et under two different conceptions of what they are.</p>	<p>1章 TO WHAT EXTENT FORMS OF GOVERNMENT ARE A MATTER OF CHOICE.</p> <p>ALL speculations concerning forms of government bear the impress, more or less exclusive, of two conflicting theories respecting political institutions; ...</p>
A 14-24 ～ B 1-8	<p>〔②〕 The Criterion of good Form of Government</p> <p>The form of government for any given country being then subject to certain definite conditions, or matter of choice, it is now to be considered by what the choice should be directed; ...</p>	<p>2章 THE CRITERION OF A GOOD FORM OF GOVERNMENT.</p> <p>THE form of government for any given country being (within certain definite conditions) amenable to choice, it is now to be considered by what test the choice should be directed; ...</p>
B 9-22	<p>〔③〕 That the ideally best form of government is representative government</p> <p>It has been long, perhaps throughout the entire duration of British freedom, a common form of speech, that if it were possible to ensure a good despot, despotic monarchy would be the best form of government.</p>	<p>3章 THAT THE IDEALLY BEST FORM OF GOVERNMENT IS REPRESENTATIVE GOVERNMENT.</p> <p>IT has long (perhaps throughout the entire duration of British freedom) been a common saying, that if a good despot could be ensured, despotic monarchy would be the best form of government.</p>

B 23-24 ～	〔④〕 To what society representative government is inapplicable  Representative government is, we have concluded, the ideal type of the best government, for which, in consequence, any portion of mankind became more fit in proportion to their degree of general improvement.	≠	4章 UNDER WHAT SOCIAL CONDITIONS REPRESENTATIVE GOVERNMENT IS INAPPLICABLE.  WE have recognised in representative government the ideal type of the most perfect polity, for which, in consequence, any portion of mankind are better adapted in proportion to their degree of general improvement.
C 10-20 ～ D 1-2	〔⑤〕 What are the proper functions of representative bodies  In treating of representative government it is necessary always to keep in view the distinction between its idea or essence, et the particular forms in which accidental historical developments, or the ideas [??] at some particular period, have clothed that idea.	≠	5章 OF THE PROPER FUNCTIONS OF REPRESENTATIVE BODIES.  IN treating of representative government, it is above all necessary to keep in view the distinction between its idea or essence, and the particular forms in which the idea has been clothed by accidental historical developments, or by the notions current at some particular period.
D 3-18	〔⑥〕 Of the infirmities et dangers to which representative government is liable.  The defects of any form of government are either negative or positive.	≠	6章 OF THE INFIRMITIES AND DANGERS TO WHICH REPRESENTATIVE GOVERNMENT IS LIABLE.  THE defects of any form of government may be either negative or positive.

D 19-20 ～ E 1-13	<p>〔⑦〕 Of True et False Democracy; the representative of all, et the representative of the majority only.</p> <p>It has been seen, that the dangers incident to a representative democracy are of two kinds; danger of a low standard of intelligence in the representative body, et in the popular opinion which controls it; et danger of class legislation on the part of the numerical majority, these being all composed of the same class.</p>	≡	<p>7章 OF TRUE AND FALSE DEMOCRACY; REPRESENTATION OF ALL, AND REPRESENTATION OF THE MAJORITY ONLY.</p> <p>IT has been seen, that the dangers incident to a representative democracy are of two kinds: danger of a low grade of intelligence in the representative body, and in the popular opinion which controls it; and danger of class legislation on the part of the numerical majority, these being all composed of the same class.</p>
E 14-20 ～ F 1-11	<p>〔⑧〕 Of the extension of the suffrage.</p> <p>A representative democracy such as has been now sketched, or democracy representative of all, et not solely of the majority, or democracy in which the interests, the opinions, the grades of intellect which are outnumbered, would nevertheless be heard, ...</p>	=	<p>8章 OF THE EXTENSION OF THE SUFFRAGE.</p> <p>SUCH a representative democracy as has now been sketched, representative of all, and not solely of the majority—in which the interests, the opinions, the grades of intellect which are outnumbered would nevertheless be heard, ...</p>
F 12-20 ～ G 1	<p>〔⑨〕 Of the mode of voting</p> <p>The question of greatest moment which arises respecting the modes of voting, is that of secrecy or publicity; et to this we will in the first instance address ourselves.</p>	=	<p>10章 OF THE MODE OF VOTING.</p> <p>THE question of greatest moment in regard to modes of voting, is that of secrecy or publicity; and to this we will at once address ourselves.</p>
G 2-11	<p>〔⑩〕 Of the duration of Parliaments</p> <p>After how long a period should members of Parliament be subject to reelection ?</p>	=	<p>11章 OF THE DURATION OF PARLIAMENTS.</p> <p>AFTER how long a term should members of parliament be subject to reelection ?</p>

G 12-20 ～ H 1-3	<p>〔⑪〕 Of local representative bodies.</p> <p>It is but a small part of the public business of a country which can be well done, or safely attempted, by the central government; et even in our own government, the least centralized in Europe, the legislative portion at least of the governing body concerns itself far too much with the details of local affairs, et employs the supreme power of the state in cutting small knots which there ought to be regularly appreciated means of untying.</p>	=	<p>15章 OF LOCAL REPRESENTATIVE BODIES.</p> <p>IT is but a small portion of the public business of a country, which can be well done, or safely attempted, by the central authorities; and even in our own government, the least centralized in Europe, the legislative portion at least of the governing body busies itself far too much with local affairs, employing the supreme power of the State in cutting small knots which there ought to be other and better means of untying.</p>
			<p>13章 OF A SECOND CHAMBER.</p> <p>OF all topics relating to the theory of representative government, none have been the subject of more discussion, especially on the Continent, than what is known as the question of the Two Chambers.</p>
H 4-17	<p>〔⑫〕 Of the Executive in a representative government</p> <p>It would be quite needless, in a treatise like this, to [??] into any discussion of the different departments or branches into which the executive part of the government should be divided.</p>	=	<p>14章 OF THE EXECUTIVE IN A REPRESENTATIVE GOVERNMENT.</p> <p>IT would be out of place, in this treatise, to discuss the question into what departments or branches the executive business of government may most conveniently be divided.</p>

H 18-20 ～ I 1-6	<p>〔13〕 Of Nationality, as connected with Representative Government</p> <p>Any body of persons may be said to constitute a Nationality, if they are united among themselves by common sympathies, such as do not exist between them et any others, ...</p>	=	<p>16章 OF NATIONALITY, AS CONNECTED WITH REPRESENTATIVE GOVERNMENT.</p> <p>A PORTION of mankind may be said to constitute a Nationality, if they are united among themselves by common sympathies, which do not exist between them and any others — ...</p>
I 7-17	<p>〔14〕 Of Federal Representative Governments</p> <p>Portions of mankind who are not fitted, or not inclined, to live under the same internal government, may often with advantage be federally united, as to their relations with foreigners: both to prevent wars among themselves, and for the sake of more effectually defending themselves from the aggression of more powerful States.</p>	=	<p>17章 OF FEDERAL REPRESENTATIVE GOVERNMENTS.</p> <p>PORTIONS of mankind who are not fitted, or not disposed, to live under the same internal government, may often with advantage be federally united, as to their relations with foreigners: both to prevent wars among themselves, and for the sake of more effectual protection against the aggression of powerful States.</p>
I 18-20 ～ J 1-12	<p>〔15〕 Of the government of dependencies by a free state</p> <p>Free states like any others may have dependencies, obtained either by conquest or by colonization, et our own is the most [striking ?] of all cases in [past ?].</p>	=	<p>18章 OF THE GOVERNMENT OF DEPENDENCIES BY A FREE STATE.</p> <p>FREE States, like all others, may possess dependencies, acquired either by conquest or by colonization; and our own is the greatest instance of the kind in modern history.</p>

	[16] Should there be two stages of election ?	=	9章 SHOULD THERE BE TWO STAGES OF ELECTION ?
J 13-19	In some representative constitutions the [course ?] has been adopted of choosing the members of the representative body by a double process, the primary electors only electing other electors, et these again electing member of parliament.	≠	IN some representative constitutions, the plan has been adopted of choosing the members of the representative body by a double process, the primary electors only choosing other electors, and these electing the member of parliament.
J 20 ~ K 1-12	[17] Ought pledges to be required from members of parliament ?  Should a member of the legislature be bound by the instructions of his constituents?	=	12章 OUGHT PLEDGES TO BE REQUIRED FROM MEMBERS OF PARLIAMENT ?  SHOULD a member of the legislature be bound by the instructions of his constituents?
K 14	Preface  Those who have done me the honour of reading my former writings, will perhaps receive no very strong impression of novelty from the present: ...		PREFACE  THOSE who have done me the honour of reading my previous writings, will probably receive no strong impression of novelty from the present volume; ...

この対照表から次のことが言える。

- ①前半の一章から八章までは、章配列（順番）が同じである。
- ②一章から八章までの章題は同じか、ほぼ同じである。
- ③初版の九章以降は、章配列が自筆草稿とは異なっている。さらに、「十三章 第二院について」(OF A SECOND CHAMBER) が、新たに追加されていることによって、自筆草稿の章構成が変更されている。

- ④ 各章の冒頭本文は、同じものもあるが、多少とも部分的に異なっている。  
⑤ 自筆草稿では末尾にあった序が、先頭へ移されている。

#### 4 おわりに

ミルが存命中、『代議政治論』は次の版五つが公刊されている。

##### (一) 初版

Mill, John Stuart. 1861. *Considerations on Representative Government*. London: Parker, Son, and Bourn, West Strand.

##### (二) 第二版

Mill, John Stuart. 1861. *Considerations on Representative Government*. London: Parker, Son, and Bourn, West Strand. Second Edition.

##### (三) 第三版

Mill, John Stuart. 1865. *Considerations on Representative Government*. London: Longman, Green, Longman, Roberts & Green. Third Edition.

##### (四) 民衆版 (People's Edition)

Mill, John Stuart. 1865. *Considerations on Representative Government*. London: Longman, Green, Longman, Roberts and Green. People's Edition.

(五) ニューヨーク版

Mill, John Stuart. 1862. *Considerations on Representative Government*. New York: Harper & Brothers, Publishers, Franklin Square.

『ミル全集』第十九巻に収録されている『代議政治論』は、(五)のニューヨーク版<sup>(8)</sup>が言及されずに、編纂されているようである。ロブソンによると、まず一八六一年に初版が刊行される。これは売れ行きが良く、同年にすぐに第二版が刊行される。第二版では改訂が行われて、第十四章には「注記」(note)を、そして第七章〔の終わり部分〕にはトマス・ヘアー (Thomas Hare) の選挙改革論を擁護するページを付け加えている。その後三年をかけて一八六四年までに第三版の準備が行われて、一八六五年に第三版が刊行される。そして、この第三版 (Library edition) を基にして廉価版ともいべき民衆版 (People's Edition) が刊行された、<sup>(9)</sup> という (Cf. Robson, CW. XVIII. Textual introduction. lxxxvii-lxxxix. CW. XIX. Appendix E. p.658.)。

自筆草稿と初版との間に大きな相違が存在していることが明らかとなった今、『代議政治論』の成立過程およびその後の発展過程を明らかにするためには、自筆草稿と各版との校合が、あらためて重要な課題となってくるのである。

#### 注

- (1) この図録は、<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/125th.html> で公開されている。
- (2) 著名学者書簡コレクション (The famous scholar's letter collection) は、<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collection.html> で公開されている。これは、川又祐他全五人が、平成二六年度日本大学法学部学術研究費 (共同研究費) の助成を受け

て行われた共同研究「ヨーロッパ政治経済思想の系譜——日本大学法学部図書館所蔵 H. Grotius' D. Hume および J.S. Mill の書簡を中心として」の成果の一部である。

- (3) John M. Robson (General Editor) : *Collected Works of John Stuart Mill*. University of Toronto Press. Toronto and Buffalo: Routledge & Kegan Paul. 本稿では『ミル全集』を『CW』と略す。
- (4) Call No.: Mill 1. Record ID: 132741. <http://corsair.themorgan.org/cgi-bin/Pwebrecon.cgi?BBID=132741>
- (5) Call No.: Mill 2-4 Record ID: 132676  
<http://corsair.themorgan.org/cgi-bin/Pwebrecon.cgi?BBID=132676>
- (6) ロブソンは一九七九年十二月四日の文書で、自筆草稿は「おそらくは後日、綴じられたものである」と述べている。しかしながら、H帖第四葉、本文上から二行目末にある「which」の最後の「h」が、次の第五葉にもはみ出して書かれていることから、ミルは、用紙を糸綴じにして冊子体にしてから本文を書いていった可能性も否定できない。
- (7) 注(2)を参照せよ。本学図書館は、ミルの書簡類をウェブで公開している。
- (8) 『代議政治論』ニューヨーク版について、その出版の経緯は不明である。ミル『自伝』には、ニューヨーク版についての言及がない (CW. I. 265, 272. 朱牟田訳、一三九、一四〇—一四二頁)。
- (9) ロブソンはここで、『代議政治論』初版、第二版、第三版を、Library edition と呼んで、民衆版 (People's Edition) と区別している (ロブソンの一九七九年十二月四日の文書においても同様である)。ロブソンは、『ミル全集』に収録する際、本来であれば、ミル存命中の最後の版すなわち、第三版 (Library edition) ではなく、民衆版 (People's Edition) を底本にすべきであった。しかしながら、民衆版 (People's Edition) には「原文の信頼性」 (textual authority) について異論があることから、ロブソンは、あえて第三版 (Library edition) を底本に採用している。

#### 参考文献

川又祐「ホッブズ『リヴァイアサン』初版 Head 版 (一六五一年) の異刷について」『政経研究』五一 (一)、二〇一四年、三一

—四八頁、参照。

川又祐、江島泰子、藤原孝、山口正春、Th. Lockley『ヨーロッパ政治経済思想の系譜——日本大学法学部図書館所蔵H. Grotius' D. Hume 及び J.S.Mill の書簡を中心として』、二〇一五年（非売品）。

日本大学法学部図書委員会『日本大学法学部創設百二十五周年記念特別展示会図録』、二〇一四年（非売品）。この図録は、ウェブで閲覧が可能である（二〇一五年五月現在）。<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/125th.html>

Norman, Jeremy M. 1980: *Twelve Manuscripts*. Catalogue Eight. Jeremy Norman & Co., Inc. San Francisco. このカタログは、ウェブでも閲覧できる（二〇一五年五月現在）。<http://www.historyofinformation.com/expanded.php?id=4398>

[John Stuart Mill] [1860] : [Considerations on representative government] [manuscript] 日本大学法学部図書館所蔵

Mill, John Stuart. 1861: *Considerations on Representative Government*. London: Parker, Son, and Bourn, West Strand.

Mill, John Stuart. 1861. *Considerations on Representative Government*. John M. Robson (General Editor) : *Collected Works of John Stuart Mill. Essays on Politics and Society*. Vol. XIX. 1977. University of Toronto Press. Toronto and Buffalo: Routledge & Kegan Paul. 本稿は『ミル全集』を、CW と略す。

Mill, John Stuart. 1873: *Autobiography*. London: Longmans, Green, Reader, and Dyer. CW. I. *Autobiography and Literary Essays*. 1981. 朱牟田夏雄『ミル自伝』岩波文庫、一九六〇年。山下重一『ミル自伝初期草稿』お茶の水書房、一九八二年。

Robson, John M. 1977: Textual Introduction. CW. XVIII. *Essays on Politics and Society*.

**John Stuart Mill's Autographed Draft Manuscript Considerations on Representative Government in the Nihon University  
College of Law Library**

Professor Hiroshi Kawamata, Nihon University College of Law

J・S・ミル『代議政治論』自筆草稿（日本大学法学部図書館所蔵）について（川又） 一八七（二六九）

Nihon University College of Law library houses a J. S. Mill's autographed draft manuscript of 'Considerations on Representative Government'. It has 11 quires (A to K) probably written in 1860. This manuscript is a significant and important cultural and political property, which has had major ramifications for government and social systems around the world to this day.

So far, I have compared only the titles and ordering of the chapters of this draft manuscript with that of the first published edition of 1861. This initial research has fascinatingly revealed that there are many differences between them, which leads me to conclude that we need to make a fuller comparison between this draft manuscript and later editions of 'Considerations on Representative Government' as soon as possible.